

多摩川の名脇役

「新撰組のふるさと・日野」に今も息づく用水路

20. 日野用水 (東京都八王子市平町～日野市)

日野市域は、江戸時代に多摩川と浅川から引かれた農業用水路が市内を網の目のように流れ、崖線からの湧水群が現存する大変水に恵まれた地域です。このような特徴を生かした街づくりを進めていることが評価されて国土交通省選定の「水の郷百選[*1]」にも選ばれています。



(左から時計回りに)

国道169号線沿いの日野用水／日野用水の取水口／日野下堤用水／日野下堤用水付近の多摩川／日野用水排水樋管 (写真-H20.10撮影)

日野用水のはじまりー・ー・ー・ー・ー・ー

日野用水は、美濃国（岐阜県）から移住してきた佐藤隼人[*2]によって室町時代後期の1567年（永禄10）に開拓された用水です。

この頃、日野市域は小田原北条氏の支配下に入り、滝山城（のちの八王子城）の城主であった北条氏照[*3]は多摩地域の開発を積極的に進めていました。佐藤隼人は北条氏照から許可を得ると、罪人を使役して日野用水を開削しました。

江戸時代の日野用水ー・ー・ー・ー・ー・ー

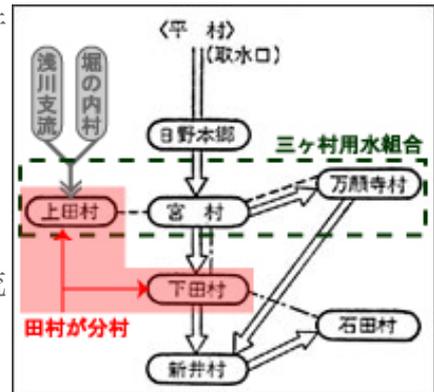
江戸時代の日野用水は、日野本郷・万願寺村・下田村・新井村・石田村・宮村・上田村の七ヶ村を灌漑しており、日野領七ヶ村用水組合を結成していました。「旧高旧領取調帳[*4]（関東編）」によると、これらの村々のほとんどは、江戸幕府直轄の幕領だったようです。

日野領七ヶ村用水（現在の日野用水）は右図のような灌漑流路を辿っていました。取水口のある平村（現在の日野市

みなみだいら

南平）から日野本郷（現在の日野駅付近）に引き入れられた水は、宮村に入り万願寺村を流れ、新井村・石田村に流れます。

下田村は宮村から流れてきた水を新井村へ流しています。上田村については七ヶ村用水ではなく浅川支流と堀の内村から水を引いていましたが、上田村が所属していた三ヶ村用水組合に宮村と万願寺村が含まれておりこの二村が七ヶ村用水組合の構成村であったこと、また元々「田村」という一村が「上田村」と「下田村」に分かれたという記述が「新編武蔵風土記稿」にあることから、「上田村」も七ヶ村用水組合に編成されたと考えられます。



日野領七ヶ村用水の流路

日野市の幹線水路ー・ー・ー・ー・ー・ー

日野市域はちょうど西側を向いた犬の横顔のような形をしていて、犬の耳から後頭部を通り首にあたる部分を多摩川が、犬の口から顔の中心を通り首にあたる部分を浅川が流れています。この二つの大きな河川である多摩川と浅川によって発達した「沖積低地」、これらの河川の河岸段丘によってできた市域の西側に広がる「日野台地」、そして市内南側に位置する「多摩丘陵」の三つの特徴ある地形によって形成されています。



日野市の幹線水路

日野市には日野用水の他にも多摩川・浅川・程久保川から取水している水路が多く存在し、市内を川とほぼ平行に流れるその総延長は約177kmに及びます。日野市を取水口とした用水幹線は9つあり、程久保川からの一宮関戸連合用水をはじめ、浅川からの向島用水・高幡用水・新井用水・上田用水・豊田用水・平山用水・川北用水・上村用水がそれに当たります。水に恵まれた日野市域では稲作が盛んで「多摩の米蔵」と呼ばれていました。

日野宮神社のうなぎ伝説

日野宮神社が建立されている日野市栄町近辺はその昔、四谷村と呼ばれていました。四谷村辺りでは古くから「うなぎを食べてはいけない」という習慣があるそうです。その理由には、
・日野宮神社本尊の虚空蔵菩薩の召使いが「うなぎ」であるから、
・薬師堂に安置してあった勢至菩薩（単独で祀られることは少なく、阿弥陀様を中心として阿弥陀三尊の形式で祀られることが多い）が「うなぎ」を召使いとしているから、
・近くを流れる多摩川で洪水が発生した時たくさんの「うなぎ」が現れて壊れかけた堤防の穴に入りこんで決壊を防ぎ、村人を救ったから等諸説があるそうです。多摩川で獲れるうなぎを好んで食べていた四谷村の村人たちは、その大事なうなぎをいつの頃からか食べることを止め、うなぎにまつわる日野宮神社の仏様のうち虚空蔵菩薩を事の外大事にしたそうです。



現在の日野用水ー・ー・ー・ー・ー

1605年（慶長10年）、甲州街道と同時に日野宿も整備され、1716～35年の享保年間には新田開発奨励により農地拡大が進みました。1889年（明治22年）に甲武鉄道（現在の中央線）の新宿ー八王子間が開通し、翌年には日野駅が開設されました。1893年（明治26年）に多摩地域が東京府に編入され、日野宿は「日野町」に改められました。

昭和に入り、世界恐慌のあおりを受けて昭和恐慌に陥りますが、日野町はこの打開策として工場誘致を展開し、1934年（昭和9年）頃から「日野五社」を始めとする企業の進出が始まると、次第に都市化傾向となり急激に人口も増えてきました。土地利用についても、農地が減少し宅地が増加してきたことで、生活雑排水が用水路に多く流れるようになり、1968年（昭和43年）頃から用水の水質が低下してきました。そのため、水質改善を目的として、1976年（昭和51年）に日野市公共流域の流水浄化に関する条例である「日野市清流条例」を施行し、市内8用水団体と「用水路年間通水業務委託契約」を結んで、日野市内の用水路に年間通水を行うことにしました。

1985年（昭和60年）頃からは、ビオトープ[*5]や親水公園等市民が親しめる施設を整備を始めました。1980年（昭和55年）には各団体の役員による「清流監視員（清流レンジャー）」制度を設け、用水に関する日常的な管理・監視は住民に委任し、水路施設の補修・改修は市が行うといった役割分担がされています。

「日野用水を取り巻く流域の歴史」

1558年（永禄元年）～ 小田原北条氏が日野市域を支配下に治める

1567年（永禄10年） 佐藤隼人が日野用水を開削する

1603年（慶長8年） 徳川家康が江戸幕府を開く

1604年（慶長9年）頃 大丸用水が完成する

1605年(慶長10年)	．．．．	甲州街道の整備と共に日野宿が置かれる
1611年(慶長16年)	．．．．	二ヶ領用水(右岸)と六郷用水(左岸)が完成する
1650年(慶安3年)	．．．．	大洪水により多摩川の川筋が変わる
1654年(承応3年)	．．．．	玉川上水の工事が完了する
1693年(元禄6年)	．．．．	府中用水が完成する
1710年(宝永7年)	．．．．	日野領七ヶ村用水組合と拝島領九ヶ村用水組合との間に用水論争が起こる
1712年(正徳2年)	．．．．	評定所により用水論争の裁決が下され、拝島領九ヶ村用水組合の主張が認められる
1889年(明治22年)	．．．．	甲武鉄道(現在の中央線)の新宿-八王子間が開通する
1893年(明治26年)	．．．．	多摩地域が東京府に編入され日野宿が日野町に改正される

*1 水の郷百選

- ．．． 水環境保全の重要性について広く国民にPRし、水を守り、水を活かした地域づくりを推進するため、地域固有の水をめぐる歴史・文化や優れた水環境の保持・保全に努め、水と人との密接なつながりを形成し、水を活かしたまちづくりに優れた成果を上げている107地域を「水の郷百選」として国土交通省が認定したもの。

*2 佐藤隼人(さとうはやと)

- ．．． 美濃国(岐阜県) ^{むぎ}武儀郡八幡村の出身で、斎藤道三に仕えていた武士。日野用水の開削や谷地川と合流させて上・下堰を作ったり、北条氏照により造られた甲州街道の前身ともいわれる街道の建設にも協力して村人に押されて名主となり、後に実収三千石といわれた日野本郷の基礎を作った。1605年(慶長10)に没し、自らが開削に尽力した日野市日野本町の大昌寺に葬られている。

*3 北条氏照(ほうじょううじてる)

- ．．． 戦国時代の武将で北条氏康の三男。滝山城主大石定久の後を継ぎ、八王子に居住。関東各地を転戦し、北条氏の勢力拡大に貢献する。後の豊臣秀吉による小田原征伐には抗戦を主張したが、敗戦後にその責任を取って切腹。

*4 旧高旧領取調帳

- ．．． 明治政府が編纂した江戸時代の末期時における全国村名目録。

*5 ビオトープ(Biotop/Biotope)

- ．．． 生物生息空間。人工的に形作られた河川などの流路形態をより自然に近い形に戻し、それによって多様な自然の生物環境を修復させるというような、生息環境基盤の修復によって形成された生態系のこと。